

平成27年度 事例検討会・多職種交流会 実施報告

第2回

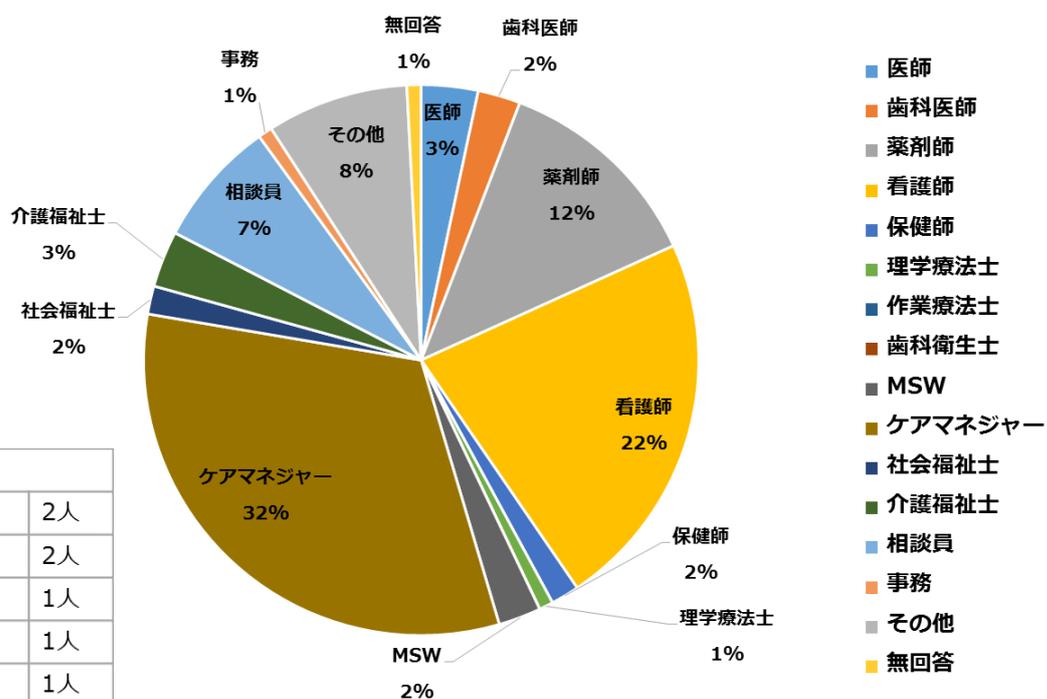
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深める。 ・光が丘地区において事業所間、専門職間で顔が見える関係性を構築する。
実施日	平成27年9月10日(木) 19:00～21:30
テーマ ねらい	<p>「光が丘地区における医療と介護の現状」 講師：光が丘高齢者相談センター 医療・介護連携推進員 安井 晴代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が丘地区の医療介護資源の現状およびそれぞれの事業者等のネットワーク形成の重要性を知る。 <p>「認知症の方の看取りについて考える」 講師：さんくりにつく 医師 内田 義之 発表者：小規模多機能型居宅介護たがらの家 青木 伸吾 油山 敬子</p> <p>藤原 覚（13年間在宅介護した若年性認知症の妻を在宅で看取った区民）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の看取りについて、多職種で構成されたグループ間で意見交換を行い、それぞれの職種の役割を知り、認知症の方の看取りについて考える。 ・小規模多機能型居宅介護を知る。 ・認知症の介護者の話を聞き、認知症の在宅看取りについて考える。
プログラム	<p>第1部 事例検討会</p> <p>講義「光が丘地区における医療と介護の現状」（8分） 発表者：光が丘高齢者相談センター 安井 晴代</p> <p>事例検討「認知症の方の看取りについて考える」 発表者：小規模多機能型居宅介護たがらの家 青木 伸吾 油山 敬子</p> <p>藤原 覚（13年間在宅介護した若年性認知症の妻を在宅で看取った区民）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で意見交換 <p>テーマ：若年性認知症の看取りについて、専門職は家族に対し、どのような時期にどのように関わるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロアからの発表 ・事例の経過報告 ・小規模多機能型居宅介護について ・家族から立場から ・まとめ ・アンケート記入・休憩（交流会準備） <p>第2部 多職種交流会</p>
参加者	<p>事前申込者数 169人</p> <p>参加決定者数 106人 傍聴 34人</p> <p>参加者数 93人 欠席者数 13人 参加率 87.7%</p> <p>傍聴 36人（当日参加6人を含む）</p>

【アンケート結果】抜粋

アンケート回答者数 121人（回答率 94%）

1 回答者職種

参加者数が多かった職種は順に、ケアマネジャー（39人 32%）、看護師（27人 22%）、薬剤師（15人 12%）だった。（第1回と同様）

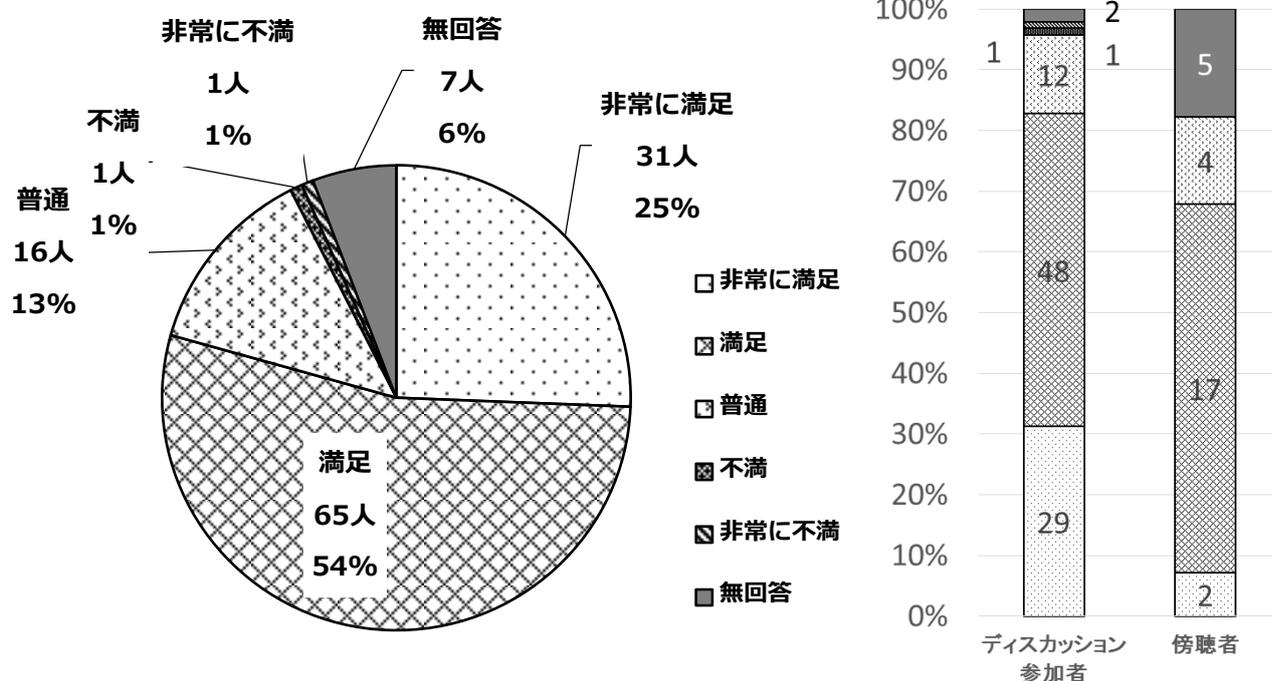


※その他の内訳

介護職（デイサービス）	2人
管理者	2人
老人ホーム管理者	1人
訪問マッサージ	1人
薬局経営者	1人
福祉用具専門相談員	1人
家族会	1人

2 事例検討会の満足度

「非常に満足」、「満足」と回答した方が合わせて79%（96人）だった。



3 満足度の自由意見

- 実際ご家族を介護されてきたご主人がお話をしてくださった事で、ご家族の思いがよくわかりました。専門職のみでなく、これからはご本人、ご家族がこういう場で発言されることも、更に地域医療介護の連携につながるのではと感じます。
- グループディスカッションをすることで、他の職の方の考えを聞くことができ、勉強になった。
- 若年性認知症ターミナルという貴重な症例だった。
- 実際に介護された家族の生の声が聞け、在宅で家族を看取り、関係者の連携の大切さを実感しました。在宅の居宅は個で走ってしまいがちになる為、早い段階からチームで連携していく体制を作っていくことが大事であるので、普段から勉強・情報をたくさん得る事をしていきたいと思いました。
- テーマの意図についても前もって触れたほうが良かったのでは。小規模多機能の役割が十分生かされた事例であったと思う。家族である夫のお話が聞けて Dr への要望、病気への思いが参考になった。専門分野のみならず多くの知識を駆使することが大切と認識しました。
- ケースを通して、介護者の生の声が聞けて良かった。小規模多機能施設の事も理解できた。